

堤防火災にご注意を！

1月18日午後1時前頃、国富町の本庄川左岸、国富浄化センターの上流の堤防で、堤防火災が発生しました。



堤防を通っている方から通報があり、消防車が出動して消火活動を行った結果、堤防敷きを約120mほど燃やして、20分程度で鎮火しました。警察と消防の現場検証では、原因は特定できないとのことでしたが、たばこのポイ捨てかもしれないと話されていました。

堤防敷に、時々踏みつぶされた吸殻が落ちているのを見かけます。たばこの吸殻は、一見火が消えていても、火種が残っていてあとで燃え出すということもあるそうです。

本庄出張所管内では、昨年6月にも綾町内で、堤防火災が発生しています。また、昨年や一昨年にも、三名川の堤防などで火災が発生しているようです。

火災には至っていませんが、昨年末、12月28日夜には、河川敷でゴミが燃やされているという情報を受けて、現場に行ってみたら、まわりに、燃やしている人が誰もいなかったということもありました。少し離れた場所には枯れた草が生えている場所ですので、燃え移ったら広い範囲に燃え広がっていたかもしれません。

冬場は、空気が乾燥しやすく、火災が発生しやすい時期です。堤防敷は特に、草が枯れて火がつくと燃え広がりやすくなっています。これまでは幸いにも堤防敷きの枯れ草が燃えただけで済んでいます。いつ堤防脇の家屋に飛び火したり、散歩している人が火災に巻き込まれたりということが起こってもおかしくありません。

たばこのポイ捨ては絶対にしないで頂くとともに、もし、ゴミの不法投棄・焼却や、不審な人を見かけたら、出張所や町、警察などに通報をお願いします。

堤防に書かれている距離は正しくないの？

～「距離標」のおはなし～



先日、堤防を散歩される方から本庄出張所に問い合わせがありました。

「柳瀬橋の上流の堤防に書かれている 0/200 と 0/400 との間が、どうしても 200m もあるようにはみえないが、あれは距離じゃないのか？」

堤防を散歩されている人なら、写真のように、堤防に設置されているコンクリートの柱と、その横に書かれている数字を見たことがあると思います。

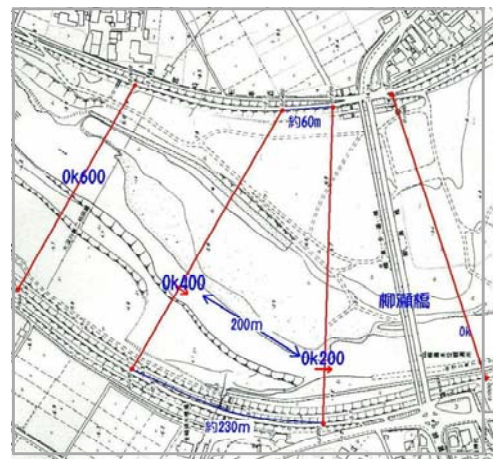
これは、「距離標」といって、本庄川（綾南川）、綾北川では大淀川との合流点から、深年川では本庄川との合流点からの距離をあらわして、200m ごとに設置されています。「〇〇川〇キロ付近で・・・」と、位置を伝えるために使うだけでなく、測量の基準としても使われる、河川管理上重要な施設です。

最初の問い合わせに戻って、距離標の間隔ですが、確かに、柳瀬橋直上流左岸側の 0k200 と 0k400 の地点の間は、実際には約 60m しかありません。200m ごとにあるはずの距離標。本庄川での数字は間違っているのでしょうか？

もちろん、間違っていて設置されているわけではありません。なぜこんな事になったかという、**「川が曲がっている」**からなのです。距離標は、確かに 200m ごとに設置されていますが、その距離は、「河心(水が流れている部分の中心)」で測ると決められています。測った場所から川の流れてに対して垂直にのばした堤防に距離標は設置するため、川が曲がっている内側では間隔が短く、外側では長くなってしまいます。

ちなみに、先ほどの場合、上流から見て左岸側は約 60m ですが、右岸側は逆に、約 230m あります。

本庄川流域では、一番短いところは約 60m ですが、一番長いところでは 300m 近くになるところもあります。長いな、短いなって考えながら堤防を歩いてみると、いつもと違った風景が見えるかもしれません。



柳瀬橋付近の距離標の位置

河川に関する問い合わせ先

国土交通省宮崎河川国道事務所本庄出張所

〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄5056-7

電話 0985-75-2179(土日・祝祭日及び夜間は宮崎河川国道事務所に転送されます)

宮崎河川国道事務所ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>